

第3学年 算数科学習指導案

平成29年6月5日3校時
授業者 風間 あゆみ

1 単元名 「あまりのあるわり算」

2 本時の身に付けさせたい力

- ▲と□が並んだ図からきまりを見つける活動を通して、除法で形を見つけることを理解し、正しく計算できる。

3 目指す子どものかかわる姿

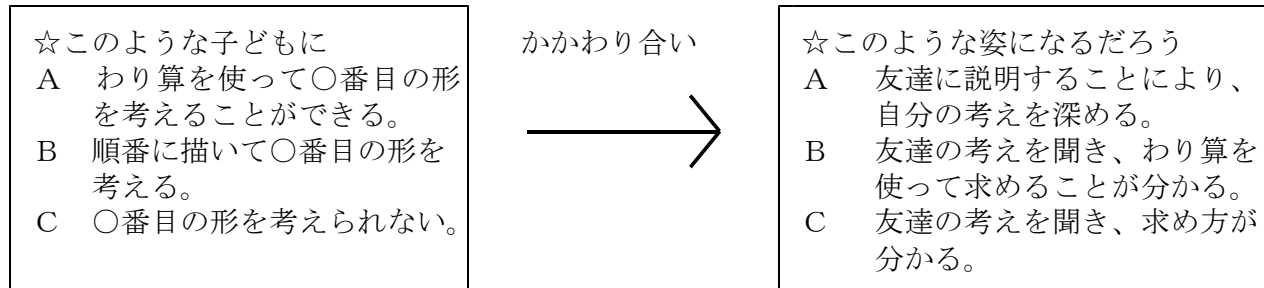
- 20番目にくる形を出す考え方を、友達から聞いたり説明したりする姿。

4 児童の実態

(1) 本時にかかわる学力の実態

- ・ 2年生のNRT学力テストでは、算数の偏差値が58.7であった。全体的に算数が好きな子が多いようだ。2年生の復習のたし算やひき算の混じった複雑な文章問題のプリントでは、よく文章を理解しないまま立式し正確に解答できない子どもが目立った。また、前単元のわり算では、九九を用いて答えを出す際、6や7・8の段で正確に九九を覚えていない子どもが数人いた。
- ・ 文章を書くことに慣れている子が多い。ほとんどの子どもが、「私は・・・だと思います。」「なぜかというと、・・・だからです。」というパターンに当てはめ書いている。字が雑になる子どもが多いので、丁寧に見やすく書くよう指導している。

(2) かかわり合い



5 指導計画 (全6時間)

- あまりのあるわり算2時間
- 問題1時間
- チャレンジ1時間 (本時1 / 1時間)
- 練習1時間
- 力だめし1時間

6 本時の指導 (4 / 6時間)

時間	学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	・留意点○かかわり合い☆評価						
5分	1 図を見て考える。	<p>T: ▲と□がこのように並んでいます。13番目の形は、▲と□のどちらでしょう。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A ▲▲の次に□ □で、順番 になっている から。▲です。</p> </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B ▲だと思いま す。なぜか という、順 番になっ ている からです。</p> </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C よく分から ない。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> </table>	<p>A ▲▲の次に□ □で、順番 になっている から。▲です。</p>	<p>B ▲だと思いま す。なぜか という、順 番になっ ている からです。</p>	<p>C よく分から ない。</p>	↓	↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ ▲と□が並んだ図を提示する ・ 14番目、15番目など大きい数についても考えさせる。
<p>A ▲▲の次に□ □で、順番 になっている から。▲です。</p>	<p>B ▲だと思いま す。なぜか という、順 番になっ ている からです。</p>	<p>C よく分から ない。</p>							
↓	↓	↓							

15分	2 問い・願いをもつ	<p>◎ きまり正しくならんでいる形の、○番目の形を見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図で考える方法が出たら、黒板に示す。 ・ ▲▲□□を囲み、まとまりを捉えさせる。 			
20分	3 課題①を考える。	<p>T：20番目の形の出し方を考えよう。 T：ノートに考え方を書きましよう。</p> <table border="1" data-bbox="395 360 1066 613"> <tr> <td data-bbox="395 360 608 613">A 20個を4個ずつのまとまりに分けて考えると、□になります。(わり算の考え)</td> <td data-bbox="608 360 820 613">B 4、8、16、20の4の段の数は、□になるから。(かけ算の考え)</td> <td data-bbox="820 360 1066 613">C □だと思いません。なぜかという、順番に図を描くとそうなるからです。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p>	A 20個を4個ずつのまとまりに分けて考えると、□になります。(わり算の考え)	B 4、8、16、20の4の段の数は、□になるから。(かけ算の考え)	C □だと思いません。なぜかという、順番に図を描くとそうなるからです。	<ul style="list-style-type: none"> ・ わり算の考えが出ないときは「4こずつ分ける」ことから考えさせる。(包含除) ・ いろいろな考えの中で、素早くできるより優れた考え方はどれかを考えさせる。
A 20個を4個ずつのまとまりに分けて考えると、□になります。(わり算の考え)	B 4、8、16、20の4の段の数は、□になるから。(かけ算の考え)	C □だと思いません。なぜかという、順番に図を描くとそうなるからです。				
20分	4 課題②を考える。	<p>T：次は、どのように並んでいますか？この並び方で、20番目の形は▲と□のどちらでしょう。 T：ノートに考え方を書きましよう。</p> <table border="1" data-bbox="395 826 1066 1010"> <tr> <td data-bbox="395 826 608 1010">A さっきみたいに、まとまりを見つけるといい。</td> <td data-bbox="608 826 820 1010">B 並び方にまとまりはあるかな。</td> <td data-bbox="820 826 1066 1010">C 図を描いていくとわかるかも。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p>	A さっきみたいに、まとまりを見つけるといい。	B 並び方にまとまりはあるかな。	C 図を描いていくとわかるかも。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題②の図を提示する。 ・ 「きまり=1まとまり」に注目させる。
A さっきみたいに、まとまりを見つけるといい。	B 並び方にまとまりはあるかな。	C 図を描いていくとわかるかも。				
20分	5 考え方を話し合う	<p>T：友達と話し合って考えよう。</p> <table border="1" data-bbox="395 1115 1066 1473"> <tr> <td data-bbox="395 1115 608 1473">A 3あまり2だから、6個のまとまりが3つで、あまり2は6個のまとまりの2番目の▲。</td> <td data-bbox="608 1115 820 1473">B 20個を6個ずつのまとまりに分けるといいから・・・、$20 \div 6 = 3$あまり2だから・・・。▲かな。</td> <td data-bbox="820 1115 1066 1473">C □▲□▲□□で1つのまとまりになっている。6個で1まとまりだから、6の段を使えばできるかな。でも、20はないから・・・。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p>	A 3あまり2だから、6個のまとまりが3つで、あまり2は6個のまとまりの2番目の▲。	B 20個を6個ずつのまとまりに分けるといいから・・・、 $20 \div 6 = 3$ あまり2だから・・・。▲かな。	C □▲□▲□□で1つのまとまりになっている。6個で1まとまりだから、6の段を使えばできるかな。でも、20はないから・・・。	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合ったことを発表させる。 ・ 「□▲□▲□□」が1まとまりになっていることを確かめる。 ・ 答え(まとまりがいくつか)、あまり(まとまりの何番目なのか)が何を表しているかを確かめる。 ・ 20個を6個ずつ分けることから、「わり算」を使い求めるとよいことを理解させる。
A 3あまり2だから、6個のまとまりが3つで、あまり2は6個のまとまりの2番目の▲。	B 20個を6個ずつのまとまりに分けるといいから・・・、 $20 \div 6 = 3$ あまり2だから・・・。▲かな。	C □▲□▲□□で1つのまとまりになっている。6個で1まとまりだから、6の段を使えばできるかな。でも、20はないから・・・。				
20分	6 本時のまとめをする。	<p>◎ まとめ ▲や□の並び方は、1まとまりを見つけて、わり算で考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆まとまりに気付き、わり算を使って考える方法が分かる。 			
5分	7 振り返る	<p>T：振り返りを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あまりがいくつなのかが、1番大事だと思った。 ・ 何番目を出す問題も、わり算を使えばできることが分かった。 ・ まとまりを見つけると、どの形になるか求められることが分かった。 ・ ○さんの考え方を聞いて、形の見つけ方が分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何番目の形を出す問題は、あまりのあるわり算で求められることを理解させる。 ・ 友達の考えを聞いて、分かったことを書かせる。 			